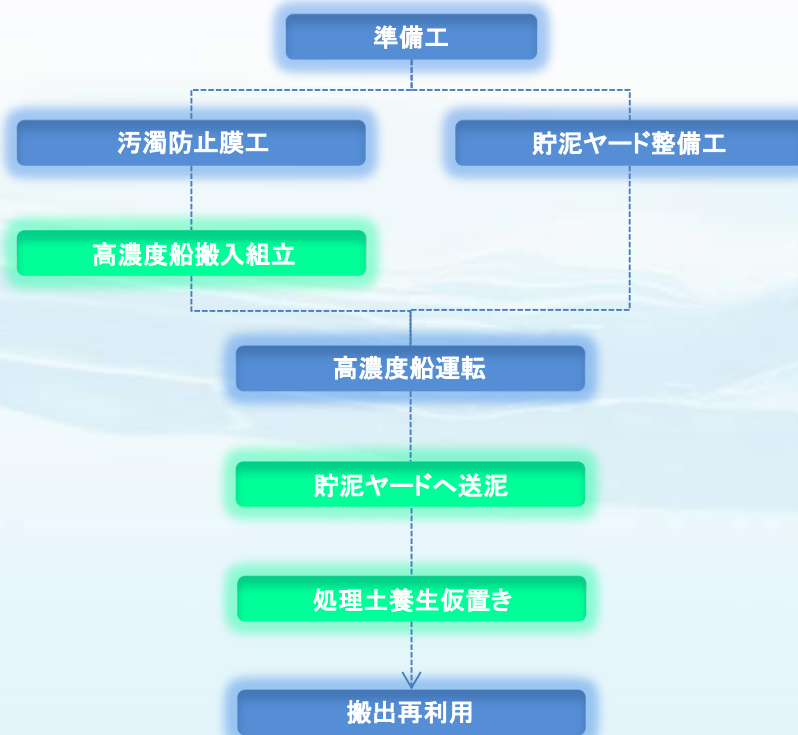


高濃度薄層浚渫（湖底の底質浄化）

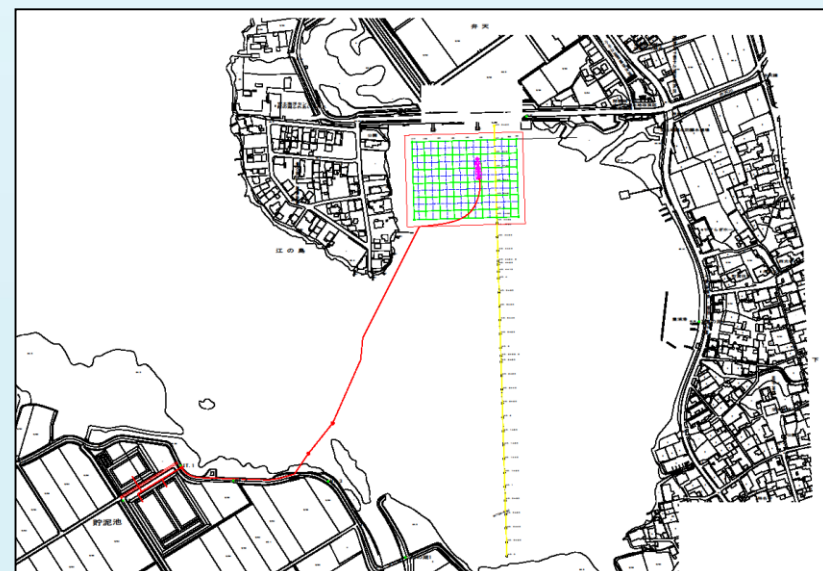
■工事概要

- 工 事 目 的 / 昭和 52 年、琵琶湖で発生した淡水赤潮を契機として行われている河川浄化事業の一環で水質の改善及び水量確保の観点から湖底に堆積する汚泥の除去（底質改善対策）をすることにより、琵琶湖に流入する前に栄養塩類を除去し水質浄化を目的とする工事である。
- 工 事 名 / 西の湖河川浄化（総流防）工事 [高濃度薄層浚渫 含泥率70%]
- 施 工 場 所 / 滋賀県近江八幡市安土町
- 発 注 者 / 滋賀県東近江土木事務所
- 施 工 数 量 / 高濃度浚渫V=10,667m³
（＊ 配送距離200m: 水上600m+水底管37m+陸上290m）

■施工フロー



施工平面図



高濃度船：清宏Ⅲ（50m³級）

■高濃度薄層浚渫工事（湖底の底質浄化）の流れ

CUTTING ROTARY SHAVER FOR LAKE RENEWAL SYSTEM

こうのうどはくそうしゅんせつせん せいこうさんこう
高濃度薄層浚渫船「清宏Ⅲ号」

ヘドロを吸い込む巨大な掃除機（浚渫船全体図）

（船体寸法）
長さ 22.43m
幅 7.32m
深さ 1.40m
水面高さ 5.85m

① タンク内へ吸い込まれたポンプと空気の力でヘドロを陸上まで送ります
② 吸い上げたヘドロはこのタンクに溜まります

ヘドロを吸い込む口（集泥機）

（浚渫能力）
1時間で取れるヘドロの量 50～80m³
作業できる深さ 6.0m（最大）
管を通してヘドロを送れる距離 3000m

① 回転するカッターでヘドロをすくい取ります
② 空気が入っているためヘドロと水が混ざり吸い寄せられます
③ 大型ポンプでヘドロを船上のタンクに送ります
1分間にドラム缶 5本分のヘドロを湖底から取り除きます。

こうのうどはくそうしゅんせつせん とくしゅ すこくち しゅうでいき しゅうい みず にご さぎょう かんきょう やさ しゅんせつせん
高濃度薄層浚渫船は特殊な吸い込み口（集泥機）により周囲の水をあまり濁らせずに作業ができる環境に優しい浚渫船です。

みずうみそこ しぜん じょうたい ちか やく あつ と そうでいかん つう りくじょう おく
湖の底にたまったヘドロを自然の状態に近いまま約30cmの厚さですくい取り、送泥管を通じて陸上まで送ります。

また、じんこうせいせい りょう うんてんかんり つか さいしん しゅんせつせん
また、人工衛星を利用した運転管理システム（GPS）を使った最新の浚渫船です。

CUTTING ROTARY SHAVER FOR LAKE RENEWAL SYSTEM

浚渫工事の作業の流れ

